

## 2013 年度アカツキ役員挨拶



代表理事 永田賢介

アカツキの強みは「一人で出来る事は限られている」ことだと思っています。理事・職員メンバーの一人ひとりが、それぞれの得意分野を持ち活動していますが、それを「仕事」という形にして、社会に価値を生み出すには充分ではありません。

「何でも人に頼らず自分一人でこなすことが自立だ」というような、自己責任・強者の論理が語られることが多い現代社会の中でこそ、むしろ「他者」を必要とし、それによりお互いに勇気づけられ合うような関係性を築いていきたい。

【楽しいことはふたりぶん♪悲しいことははんぶん♪】

昔 NHK の教育アニメでこんな歌が流れていたのを覚えています。2年目に入るアカツキでは、これを読んでくださっている皆さんとも、このような仲間になっていけたらと思っています。



副代表理事 佐々木悠史

初年度のアカツキは、私たち自身が目指そうとしているビジョンをひとつひとつ実際に明らかにし、形にし、確かめていく一年でした。それはまだ片鱗にしか過ぎないかもしれませんが、役員である私たち自身も、例えば"エンガワ"という空間が生み出すその片鱗の実感に、希望を見出した年でもありました。

事業の面では初年度と思えぬほど実に多くの方々に支えていただいています。若さ、目新しさ、面白さ、そんなところからでも関心を持っていただいた支援者、理解者、ステークホルダーの皆さまに、確かな成果を社会に還元する姿をお見せできるかどうか2年目は問われると思っています。今年度も、引き続き宜しく願いいたします。



理事 高柳 希

アカツキが始まって、はじめてのことばかりで、戸惑うこともありましたが、毎月の理事会を通して、何をすべきか日々話し合うことができたいと思います。設立パーティーでは皆さんからの温かい激励を頂き、アカツキの今後に責任と期待を私自身感じています。

NPOでの仕事の中で自分の役割や居場所をを実感できる小さな喜びを一句。

“寝坊して ごめんねと言う 仲間がいる”

今年度もよろしくおねがいします。



理事 原口ゆい

アカツキが何を成そうとしているのか、私たち自身もはっきりと形にすることのできないながらの初年度でしたが、周囲の皆様の共感を支えに活動を進めていくことで、おぼろげながら活動の方針が見えてきたと感じています。

2事業年目となる今年は、関わってくださる皆様にワクワクさせたりほっとさせたりするアカツキであり続けるといこと、それと同時に、私たちの提供するものが社会的価値を持つことを伝えていくこと、この目に見えない成果と見える成果に取り組みたいと思っています。

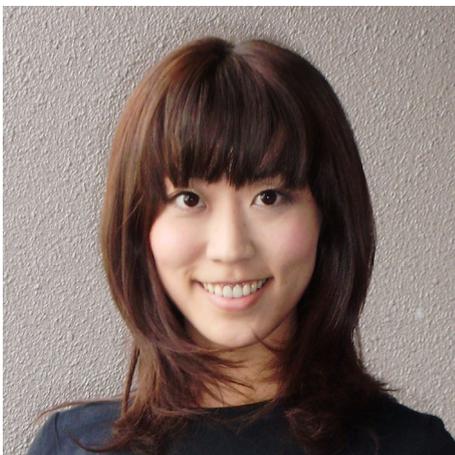
アカツキが皆様とともに歩みを進めてゆけることに、メンバー一同大変感謝しております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



理事 松島拓

最近、聞いた言葉に「観の目強く、見の目弱し」という言葉があります。剣先ばかりを見ず、全体を大らかに見ることが秘訣であると説いた宮本武蔵の言葉です。日々の仕事はもちろんのこと、それらを大きく捉えることで次の一手が見えてくる。そんな視点を忘れずに、事業を推進し、社会に対して少しでも多くの成果を生み出していけるよう、なお一層励んでいきたいと思っています。

そして、それらの実現を皆さまとともに歩んでいけることを感謝しております。皆さまのご支援に対して、真摯に成果を生み出せる、アカツキ2事業年度目にしていければと思います。「それぞれの私たちに拓かれた社会」の実現のため、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。



監事 榮田佳織

いつもアカツキをご支援くださり、ありがとうございます。中間支援を業とするアカツキについて理解するのは、監事をしている私にとっても難しい部分がありますが(笑)

最近、私はアカツキを「それぞれの人に合った居場所をつくる」団体だと解釈しています。現代は「居場所がない」と感じている人がとても多いように感じます。何らかの理由で社会と接点を持っていない状態にいる人、会社にいる時間が長いけれどもそこが自分の居場所だとは感じられない人など…。私自身、仕事場以外で私を必要としてくれるアカツキの存在に何度も助けられて来ました。居場所はひとつでなくていい、いろんな形があつていい。そんな居場所づくりのお手伝いができる団体の一翼を今後も担っていければなと思っています。

# NPO 法人アカツキ概要

## VISION

持ち寄って働く、寄りあって暮らす。  
それぞれの「私たち」に拓かれた社会へ。

## MISSION

- 1 参加と協力の仕組みを育てる
- 2 試されない関係性を広げる

## PROJECTS

### 1 コンサルティング事業

NPO の事業においては、サービスの受益者がその対価を負担出来ないケースが多くあります。(例：野生動物のための自然環境を守る／虐待児童の為にシェルターを作る／ホームレスの生活支援を行う 等) だからこそ、NPO は寄付者を「第二の顧客」と捉え、寄付「商品」を設計し、寄付集めを通して「仲間集め」をしていくことが出来ます。このようにファンドレイジングという手段を通じた、「参加と協力の仕組み」を、多くの思いある NPO との協働を通して、福岡の NPO セクター全体に育ててゆきます。

### 2 人材育成・ネットワーク事業

薬院にあるコレクティブスペース「エンガワ」を、「成長、してもしなくてもいい場所。交流、してもしなくてもいい場所。」をコンセプトとして運営し、様々な対話の場を作っています。肩書きを取り払って出会い、生活の一部を重ね、互いに評価し合わなくてよい環境を紡いでいく。その中できっと「試されない関係性」の概念や、その感覚を身にまとった仲間たちが、地域社会に広がると信じています。

### 3 調査・研究事業

福岡の NPO セクター・マーケットに必要とされる価値を、顕在ニーズ／潜在ニーズから正しく捉えるためのヒアリング調査等を行い、得た知見を逐次、他の事業の成果向上のためにフィードバックします。

### 4 内部マネジメント

私たちが NPO の経営において、何より大事にしているのは「個人」です。アカツキは誰かの幸せを実現するための舞台であると捉え、「人を目的にする＝手段化しない」組織を目指します。そして、その精神が日々の業務や、人との関わり方にきちんと行き渡り表現されるよう、丁寧に「しごと」を進めていきます。

# 2013 年度事業方針

## ① ハンズオン・コンサルティングを含むファンドレイジング支援を、メニュー・パッケージ化します。

—福岡県 NPO・ボランティアセンターからの委託事業において、ファンドレイジングに特化した実践的なセミナーと個別支援を行ない、来年度以降の自主事業開発につながるよう、NPO に対する支援サービスメニューのパッケージ化に取り組みます。

## ② NPO 現場訪問ツアーの企画を検討開始し、テスト運用を始めます。

—福岡で活躍する NPO と社会的関心の高い若手社会人をつなぐ「NPO 現場訪問ツアー事業」を始めます。そのための企画会議を定期的に行い、今年度中にテストを実施します。

## ③ 福岡市 NPO・ボランティア交流センター「あすみん」と協働の「NPO 法人入門講座」を通して、ブックレットを制作・発行します。

—今年度、アカツキとあすみんが協働で実施している「NPO 法人入門講座」の中で言語化していく NPO 設立・運営のエッセンスをまとめ、ブックレットを発行します。

## ④ NPO と若手人材をつなぐ事業の開発を行います。

—次世代の NPO セクターを担う若手の人材が生まれ・育ち・支えあう環境と仕組みづくりを行います。そのための検討会議を実施し、来年度以降の展開を目指します。

## ⑤ コレクティブスペース「エンガワ」で一口家主（ひとくちやぬし）制度を設計・運用開始します。

—エンガワがコミュニティとして財政的に自立した運営を行なっていけるよう、ともにスキームを考え、場を作っていける仲間として、会員制の「一口家主」制度を始めます。

## ⑥ 対話と交流の場「エンガワの夕げ」を毎週開催します。

—他事業の忙しさを言い訳に、なかなか開催出来ていなかった「エンガワの夕げ」。アルコールの代わりにお味噌汁を「飲みに行く」という、日常の行動様式の変化から起こる可能性を探るために、今年度は毎週金曜日に開催し続けます。ぜひお立ち寄りください。

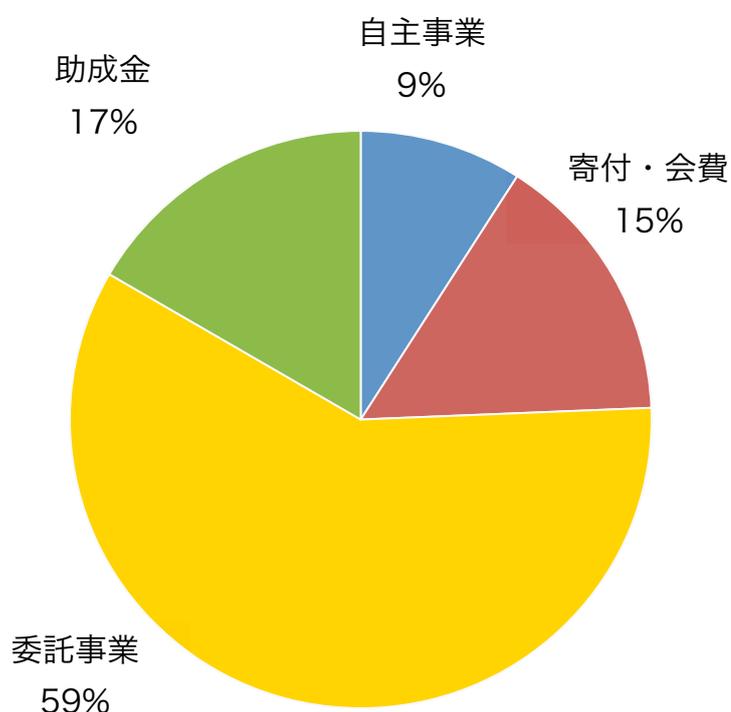
## ⑦ 会計・税務・データベース等の事務局体制を更に向上させます。

—会計・税務の業務フローを整理し、基盤を整えるとともに、会員や寄付者とのコミュニケーションを更に丁寧に行うためのデータベースを導入し、NPO 組織運営のモデルケースとなれるような事務局体制を目指します。

# 2013 年度収入目標

## 2012 年度収支報告

初年度は、収入約 550 万円に対して、支出約 450 万円で繰越金約 100 万円を残しての決算となりました。福岡県からの委託事業 (NPO プロファイル) が6割近くを占め、また助成金が 90 万円でした。寄付・会費においては、約 70 万円と初年度から多くの方々からご支援を頂きました。改めて感謝申し上げます。



## 2013 年度収入目標

2013 年度は、収入額の微増を目指しつつも、収入構造バランスの最適化を最優先事項として注力したいと考えています。

既に、委託事業約 130 万円、助成金 120 万円が確定していますが、課題として、自主事業では、事業開発とマーケティング、寄付・会費では、データベースの整備に加え、インパクトと魅力あるソーシャルリターンの設計が挙げられます。これらを解決し、事業の成果向上・発展を目指すと共に、職員の安定した雇用体制をつくっていきます。

